

運送業界の健康支援を生きがいに



161 睡眠時無呼吸症候群(SAS)の管理方法

10月28日、神奈川県で路線バスが乗用車に追突し、7人が死傷した事故で、自動車運転死傷行為処罰法違反の疑いで逮捕された運転士はその後、睡眠時無呼吸症候群(SAS)と高血圧で治療していたことが判明しました。会社は、「バスを運転する上で問題がないと診断されていた」とコメントしているのですが、ここでは本件を少し掘り下げて、その原因を検討してみましよう。

◆SASの半数が高血圧
SASは、本人が十分な睡眠をとっていると認識していても、突然意識が遠のくような症状が、時、場所をかまわず出現します。そして、SASは全身疾患、21世紀の国民病ともいわれていますが、循環器疾患とは特に密接な関係があり、SASの半数が高血圧者であるという報告もあります。しかしそれは、SAS治療が高血圧の改善に繋がっていることを示しています。

◆治療継続をしていたか？
本件のケースですが、SASのコントロール状態はどうだったのでしょうか。中等度から重症のSASはCPAPという医療機器を毎晩装着することで、良質睡眠の確保が可能。しかも即効性があるため、職業ドライバーさんには「強い味方」ともいえるのですが、毎日装着することが鉄則です。メガネのように生活を共にするというイメージ

で付き合う必要があるのですが、中には面倒がって中断する方もおられます。

医師が「就業可能」と診断したのは、おそらく指示通りの治療を継続するという条件ではなかったかと思えます。

◆会社はコントロール状況の確認を
会社はこれらの管理をどうすればよいのでしょうか。一回きりの医師の診断に任せ、その後はノーマークでよいのでしょうか。決してそうではありません。特にSASでCPAP治療をしている人には、毎月のコントロール状況を、医師↓本人のルートで確認する必要があります。つまり、AHI(SASの重症度の参考となる指数)の確認です。(参考:「運輸事業者のためのSAS対策Q&A50」)

◆SASの半数が高血圧
SASは、本人が十分な睡眠をとっていると認識していても、突然意識が遠のくような症状が、時、場所をかまわず出現します。そして、SASは全身疾患、21世紀の国民病ともいわれていますが、循環器疾患とは特に密接な関係があり、SASの半数が高血圧者であるという報告もあります。しかしそれは、SAS治療が高血圧の改善に繋がっていることを示しています。

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

昨今、点呼の重要性が際立って注目されています。せめて点呼時の血圧測定や、毎月のCPAPチェックは行っていたきたいものです。

(次回は12月10日に掲載)